

図書館利用者と小竹図書館長との懇談会

- 1 日時 平成30年10月28日（日） 午前10時30分～12時
- 2 場所 小竹図書館 2階 会議室
- 3 参加者 利用者 18名
図書館 4名
(館長、副館長、副業務責任者、本社担当)
- 4 テーマ 「私が期待する小竹図書館のサービスとは」
- 5 配布資料 (1) 次第
(2) 図書館利用案内
(3) 平成30年度練馬区教育要覧（図書館部分抜粋）
(4) 図書館だより（第39号）
(5) 小竹図書館広報紙 すてんどぐらす（10月号、11月号）
(6) 催し物（11月開催予定）のご案内
(7) 「TOKYO METRO NEWS 9月号 小竹向原特集」
(8) アンケート用紙
- 6 次第 (1) 小竹図書館長およびハートフルサポート共同事業体運営担当者挨拶
(2) 図書館職員紹介
(3) 小竹図書館について
(4) 参加者自己紹介
(5) 懇談会

図書館利用者と小竹図書館長との懇談会 会議録

1 練馬図書館長挨拶

定刻になりましたので始めさせていただきたいと思います。皆様、本日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。

2 図書館職員紹介

3 小竹図書館について

本日はお忙しい中、小竹図書館にお集まりいただきましてありがとうございます。今回は、「私が期待する小竹図書館のサービスとは」というテーマで、地域の皆さまから率直なご意見を伺いながら、小竹図書館の向上を目指して何をすべきかを共に考えることができたかと考えております。

さて、こちら小竹図書館は、平成26年4月から指定管理となり、私どもハートフルサポート共同事業体に図書館運営と施設管理を任せていただいております。ハートフルサポート共同事業体とは、N T Tグループのテルウェル東日本と、練馬区に本社を置く五十嵐商会在がジョイントを組んで立ち上げたもので、図書館の運営管理については代表企業であるテルウェル東日本が、施設管理、建物維持については五十嵐商会在が担当しております。

私は、地域図書館は地域の人々に親しまれて利用されることが一番大切だと考えておりまして、これまでの4年半で、利用者さまが望んでおられることを探るため、さまざまな施策を試みながら、図書館運営を行ってきました。まずその一つが、利用者さまのニーズに沿った蔵書構成です。小竹図書館の周囲には、日大芸術学部、武蔵野音大、武蔵大学という3つの大学があり、学生さんの需要も多いので、たとえば若い層に今、人気の音楽は？アーティストは？と調査しながらCDをそろえてきました。特にここは、武蔵野音大が近くにある関係から、もともとクラシックCDが充実しているという特徴がありました。練馬区は他区に比べて新しいCDを積極的に購入しようとしていますので、それが自慢できる点だと思います。

2番目は必要とされる情報の提供。3番目は面白くてためになる事業やイベントの開催。4番目は赤ちゃんから高齢者まで居心地の良い空間づくり、それから5番目は安心と安全の提供、6番目は緑と共生できる生活都市の推進、7番目は周辺施設との連携・協働です。必要とされる情報提供は、区役所まで足を運べない方、あるいは、インターネットができない方のために、区の情報、都の情報、国の情報をできる限りそれを必要とする利用者さまに提供できるようにすること。チラシラックを整備したりポスターを貼り替えたりして、常に最新情報をお届けできるよう心掛けております。あるいは、問い合わせがあれば、区との懸け橋になり、パンフレットなどを取り寄せたりもしています。

3番目の事業については皆さまにもご協力いただいたり、あるいは参加していただいたりしておりますので、よくご存知かもしれませんね。今後も、いろいろなためになる面白

い事業を考えていきます。

こちらのファイルは、小竹図書館が発行している図書館だよりの『すてんどぐらす』のバックナンバーを集めたものです。平成26年4月からの小竹図書館で開催したイベントのポスター類を集めたものです。（すてんどぐらすファイル、ポスターファイルを参加者に回覧）

4番目の赤ちゃんから高齢者までが居心地の良い空間づくりというのは、1階のみんなのトイレに補助便座を置いたり、絵で場所を示すフットサインで案内板を出したりたりしてわかりやすい施設案内をするようにしています。また小竹図書館は、施設建設時に授乳室や対面朗読室が設けられていなかったもので、現在、授乳に関しては私たちの休憩室を使っています。お昼に来られた場合は、私たちはお弁当箱をかかえて外に出て場所を提供するということをしています。建物に制約があるのでいろいろ工夫しています。

5番目の安心と安全の提供というのは、どこの施設でもそうでしょうが、地震が来たらどうするかを常に念頭に置き、定期的に防災訓練をやったり、不審者対応のために交番に依頼して巡回をしていただいたりしています。

6番目の緑と共生できる生活都市の推進ですが、練馬区は「みどりの風吹くまちビジョン」を掲げていますので、小竹図書館は敷地が狭いものの、夏場はゴーヤで緑のカーテンを作って、南側の直射日光が当たらないように工夫し、ゴーヤの実がなったら利用者の皆さまに提供しています。非常に人気で、カウンターに置くと1時間もたたないうちになくなります。

7番目の周辺施設、団体さんとの連携というのは、図書館単独では大きな事業はできませんが、たとえば栄町敬老館さんや、こどもの森さんなどと組んで事業を行えば、たくさんの方々に広報でき、日ごろ図書館に足を運ばない方も参加してくださいます。つまり、利用者の開拓もできるわけです。また季節の花を建物周囲に飾る花いっぱい運動も推進しています。

八雲神社で開催された小竹町会主催のこたけあそびに出張して、社務所で絵本を読んだり、参加してくれた子供たちにリサイクル絵本を配布したりしました。江古田映画祭の広報も毎年協力させていただいています。また、周辺の保育園・幼稚園・小学校・中学校の先生方に協力していただいて、おすすめの本と推薦コメントをもらって、「近隣の先生が選んだおすすめ本」の企画展示も現在行っていますので、後で展示コーナーをご覧いただけたらと思います。

図書館が地域の皆さまにとって利用しやすいものに少しずつ近づければいいなという思いで、図書館運営に取り組んでいます。

(1) 教育要覧に基づく小竹図書館の紹介

ア．開館年

イ．所蔵資料数、利用状況等

個人貸出者数 約12万6000人、貸し出し点数 約38万点

ウ．小竹図書館の特色ある蔵書について

オーストラリア・イプスウィッチ市からの寄贈図書、馬場のぼるコーナー

4. 参加者自己紹介

周辺保育園園長、周辺保育園職員、町会役員、おはなし会ボランティア、小竹図書館立ち上げ運動に携わった方(小竹町在住)、元あかちゃんおはなし会ボランティア(小竹町在住)、周辺敬老館館長、周辺飲食店オーナー、周辺学童保育所長、文庫連絡会会員、読書サークル会員、周辺保育園職員、あかちゃんおはなし会ボランティア、布の絵本ボランティア(2名)、子供英語講師(小竹町在住)、陶芸家(小竹町でギャラリー運営)、周辺児童館館長

5 懇談会

図書館 本日のテーマは「私が期待する小竹図書館のサービスとは」ですが、日ごろ、利用していただくうえで、何か感じておられるようなことがありますでしょうか。

利用者 本を借りるときに期間があると思うのですが、ああいうのは決まっているものですか。

図書館 貸出期間は2週間です。次の方が待っていらっしゃらなければあと2週間延ばすことができます。お電話でもいいですし、ご自宅のインターネットやスマホからご自身で延長もできます。

利用者 私は家が近いのですが、返してまた借り直す時間がなくて。でも、2週間で読み切れなかったりするものですから。

図書館 ただその時に、お借りになられている他の本が延滞になっていたら貸出延長は無理ですが、それがなくて次の予約も入っていなければ、もう2週間借り

られるのです。すると、合計で4週間ですね。

利用者

ちょっと質問いいですか。私は住んでいる場所がちょうど江古田と桜台の間です。なので、練馬で本を借りて、小竹に来てそれを返してまた本を借りて、それをまた今度練馬に持っていく。要するに小竹と練馬を両方使っています。それで、先ほど申し上げたように文庫連の一員です。文庫連はご存知の方もいらっしゃると思いますが、子育て学習講座などに応募しまして、文庫の近くの図書館などで自主的に講座を開いています。小竹図書館はいろんな講座が多いと感心しています。それはとても素晴らしいと思います。例えば、拝見したチラシの中に「絵本を使った子育て」というものがあって、子育て応援講座とありました。これは区が主催する子育て応援講座ではないと思うのですが、この講座を企画しているのは小竹図書館ということですか。要するに外部の方から、こういう講座を図書館で開きたいという打診があったわけではなく、小竹の方から先生を選んで交渉なさって講座を開いていらっしゃるのでしょうか。

図書館

小竹図書館で開く講座は、ほとんどが私どもで企画しています。もちろん区の承認はいただいていますけれど。ただイベントの一部、ちょうど今開催している「布の絵本の製作講座」は、区の方から依頼があって開催したものです。布の絵本は、区立図書館のほぼ全館でそれぞれ布の絵本の製作ボランティアさんが活動していますので、その方たちをもっと増やしたいという区の意向があって、今年は小竹図書館で4回連続開催することになったのです。絵本を使った子育てについてはですね、この講師の方は最初、よみきかせをしたいということで小竹図書館にお話に来られました。いろいろお話を聞いてみたら、元教師の教育カウンセラーとして、各自治体で不登校の相談にのったり、現役の教師に教える講座も担当されていたことがわかりました。そこで、話し合う中で絵本を使った子育ての講座を開いて、講座の中で子育ての相談もやりましょうということになったのです。

もしどこかの団体さんで何かやりたいなと思っていらっしゃる方があれば、一度声を掛けていただければと思います。今ここに来られているボードゲームカフェのオーナーさんも、元々は館内のポスターを見て、この図書館は面白いことやっているな、ボードゲームもやれないのかなということで、事務

室に声を掛けてくださったのが始まりでした。私も最初は、図書館でゲームはどうかとも考えましたが、ゲームが脳を活性化するという学説もありますし、面白いかもしれないと思い、やっていただくことになりました。イベントは当日自由参加にしたところ、小学生も来れば、お年寄りもいるし、カップルもいれば、高齢の女性が一人で入ってきたりと、参加者は多彩でした。初めて会った人同士が楽しそうにゲームをやっているのを見て、こういう形のイベントを地域図書館でやるのも地域の人々の交流を図るという意味でも面白いなと感じました。そこから参加者同士でお話が進んだり、ボードゲームの本を借りて帰られる人もいました。もしこういうことを図書館でやりたいと思う方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度お声掛けください。

また、イベントだけでなく、この会議室を貸出することもできます。使用料は1時間400円ですけど、読書活動に関係することでしたらお金を頂戴しておりません。ただし、貸出にあたっては、代表者が練馬区在住者であることとか、構成員の半数以上が区内在住者であることといった条件はあります。今、そちらの小竹町会さんも熱い視線を送っているの一言付け加えますと、町会さんも小竹町会館という立派な施設をお持ちでして、そちらも貸出ししておられるそうです。

利用者 安いです。400円くらい。

利用者 練馬図書館が近々改修工事に入る予定だし、私たちが利用している豊玉の地区区民館もほぼ同時期に改修工事があると聞いています。地区区民館のほうは、少し改修工事が早いと思いますが、その間、私たちはどこで活動しようかと悩んでいたもので、ありがたい情報でした。ありがとうございます。

図書館 ただ小竹図書館の場合、先にイベントが決まっている時や、定期的に利用される団体さんの予約が入っている時は、ご利用いただけないという場合もあります。それ以外のときはどうぞご利用ください。

利用者 ええ、わかりました。ありがとうございます。

図書館 先ほどの自己紹介で、児童館の館長さんは図書館の司書を持っていたらというお話でしたが、小竹図書館をご覧になられて、ここを改善した方がいいのではないかと、お気づきの点はないでしょうか。

利用者 小学2年生の授業でまちたんけんというのがあって、うちにも来られるので

すが、必ず聞かれる質問がありまして。それは、「本は何冊ありますか」という質問です。それで、「約2,000冊あるよ」という風に答えるのですが、ついでにといたらなんですが、「小竹図書館には何冊あると思いますか」という話をして「90,000冊だよ」という話をするとすごく子供たちがびっくりして、「図書館90,000冊」と一生懸命メモをしています。同行されている保護者の方も非常に驚かれます。なので、先ほど貸出延長の話も出たかと思いますが、この図書館の蔵書数も含めた基本の部分のPRもあっていいのかなって、子供たちの話とかメモをする様子を見て思った次第です。

図書館 まちたんけんは、小竹図書館でも受け入れており、それは小学生からよく聞かれる質問です。たまに小学生から「図書館の仕事をしていた一番つらいことは何ですか」などという質問も出て、鋭い質問だなとびっくりしたりしますけど。

利用者 うちの保育園では、この前運動会がありまして、クラス競技に使いたい曲があったのです。でも、図書館ではCDの団体貸出ができないので、個人で借りたりしましたが、やっぱり団体貸出は難しいのでしょうか。きっと傷つけたりしたらとか、そういう点が心配なのではないでしょうか。

図書館 たぶんですね、練馬区では同じCDを4点以上持たないことになっています。本なら、例えば有名作家、エリック・カールの『はらぺこあおむし』ですと、複本がたくさんあるので、団体貸出しても個人貸出にさほど影響は及びません。ところが、CDの場合、団体さんに3点のうちの1点を3か月貸し出すと、残りは2点になってしまう。そのあたりが問題になるのだと思いますが、光が丘図書館にご要望はあげておきますね。ところで運動会で使われるCDはありましたでしょうか。

利用者 実のところいいなあと思うCDは、大体、職員が自腹で買ったりしています。でも、図書館にあった吉田兄弟のアルバムに入っている三味線の「ちゃちゃちゃ」は、とてもよかったですよ。ここは音楽大学もあるのでCDが豊富だろうと探したらたまたまあって、借りることができました。

利用者 保育・教育の専門書は、小竹図書館の2階にある本を活用させていただいたり、ネットで調べたりもしますが、結構高いですね。書店に行くと専門書がたくさん出ているので、うちの職員にも「いいなと思うものは買って保育

園に置いてね」と言っているんですけど。図書館が専門書を選ぶ基準はあったりするんですか。この本も欲しいけれど、買うのはちょっと躊躇するような値段の、ちょっと読んでから買いたいと思うものも、図書館にあればいいと思うのですけれども。これは、保育・教育の専門領域になるから、難しいのでしょうか。

図書館 小規模館なので、地域の図書館という性質上、どの分野に限らず、基本的に間口の広い、初めて読む人にもわかりやすい本を選ぶ傾向はあります。ただ、それだけではちょっと物足りなくなるので、軽く好奇心を刺激するような本も選びます。教育関係でいいますと、間口を広げるという意味ではどうしても家庭教育に比重を置きがちになります。たまに教員向けの本を買ったりもしますが、数的には少ないといえます。もう少し大きい規模の図書館だと専門書の比率も高くなるのですが。しかしながら、私どももこの懇談会で皆さまの生のお声を聞くにつれ、小竹図書館では、保育園や小学校で教える立場の方向けの本も需要があるとわかってきましたので、少しずつ増やしていこうとしているところです。

図書館 補足説明です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、図書館の棚を見ていただいて読みたい本がない場合は、予約という形で本を取り寄せることができます。練馬区の12館が持っている本を予約して取り寄せる。あるいは、練馬区が持っていない本は、他区や都立、あるいは国会図書館から取り寄せることもできます。カウンターで相談していただければ手続きいたします。ただ貸していただく区によっては、新刊は3か月間他区に貸せないといったようなルールや制約があるところもあります。また、個人が家に持って帰って読んでいいものと、館内閲覧限定という制約がついている場合もあります。これは相互貸借というサービスですが、特に専門書などはその方法が良いのかなと思います。まったく練馬で新たに買わないというわけでもないのですが、発行日から日が経った本などは、既に所蔵している自治体から借りてくるほうが、利用者さまの手元に早くお届けできる場合が多いのです。

利用者 懇談会に出席するに当たりまして、うちの職員にも聞いてみたのですが、紙芝居などを季節ごとに取り入れたいという意見がありました。そういった分類とか、絵本とか紙芝居を季節のコーナーという形で棚展示してほしいなと

いうものでした。

図書館 大きい図書館のように保存書庫などがありますと、例えば冬になってクリスマスが近づいてくると、書庫からクリスマス関連の紙芝居や本を出してきて並べることができるのですが、小竹図書館の場合、書庫がないものですから、ある特定の季節の行事に関する本や紙芝居を並べることが非常に厳しいですね。

利用者 小竹図書館では、企画展示でよく季節ごとの本を面出ししてくださっているのですが、そういったところを見て選んでみようと思うのですけれど。あと、保育園として1枚のカードを作ってもらっていますが、もし可能ならクラス単位のカードを作りたいという相談がありました。私たちも、本をお借りしたからにはきちんと管理しようと心掛けているのですが、たまに図書館から延滞しているというお電話をいただくことがあり、恐縮します。0歳児から5歳児までのクラスがあるので、分けて発行いただくことはできないでしょうか。

利用者 うちの保育園ではクラスごとにカードを作らせていただいておりますよ。

図書館 はい、その通りです。クラスの先生が管理したほうが責任の所在がはっきりするというお話なら、ご相談にのります。

利用者 あとは、個人的に聞いてほしいといわれたことですが、図書館で借りてすごくいい本だったので、自分でも購入しようと思ったけれど既にその本が絶版で買えなかった場合など、その本が除籍になるときにもらえたりできないのでしょうか。

図書館 そういう問い合わせはたまにありますが、その本を除籍できるかどうかというのは、決まりがありますので、私たちが勝手に判断できないわけです。

図書館 そうですね。利用が少なくなったり、所定の棚があふれて置けなくなったとか、いくつかの基準を満たして初めて除籍候補に挙げることができるのです。みなさまの税金で購入したものですから、一人の利用者に差しあげますよと安易に言うことはできません。

図書館 なお、小竹図書館は、1階の入り口を入ってトイレに行く通路にリサイクルのコーナーがあります。そこには、図書館で除籍になった本や、ほかの利用者さんから寄贈されたけれど既に区内で何冊も所蔵しているような本を随時

置いており、欲しい人が自由に持って行っていいですよというシステムにしています。また、まもなく11月10日、小竹図書館で初めて「本のリサイクルフェア」をやります。この会議室を会場として、さまざまな分野の本を一人10冊までお持ち帰りいただけますので、よろしければご来館ください。

利用者 図書館の本のですか。

図書館 そうですね。あとは寄贈していただいた本で図書館には置けないという本を。

利用者 持ってきて、寄贈することもできますか。

図書館 持ってきていただいていいですよ。

利用者 最後ですが、図書館でお困りごとがあれば、僕たちでお手伝いできるようなことがあれば言っていただければ。子供たちと一緒にでもいいし、何かあれば、教えていただけたらと思います。

図書館 現場の先生ならではの、今、子供に人気のある本を教えていただければうれしいです。中学生の職場体験を受け入れたり、小学生のまちたんけんなどで子供と直接話す機会があるのですが、私はその時間をとても大切に思っているのです。「今、何を読んでいるの?」とか、「どの作家が好き?」とか尋ねて、子供たちの好みや流行を探ります。先日来た小学生は、「『ほねほねザウルス』が好き」と言ったので、小竹図書館に何冊あったかなとすぐに調べたり、シリーズとしてそろえたほうがいいかななどと館内で話し合ったりします。私たちも、できるだけ利用者さんの声を反映させながら選書しているつもりですけれども、やっぱり現場にいる先生の方が子供の世界に近いので、今流行っている本や歌だとかを教えていただけるとうれしいですね。

利用者 その知らせ方っていうのは、どういう形であればいいですか。

図書館 来られた時にカウンターで言っていただくか、お時間あれば2階に声を掛けていただいてもいいです。1階にある館長への手紙のご意見箱へメモを入れてもらっても結構です。

利用者 うちはいつも団体貸出で配送してもらってそのままお返しするっていう形なので、お返しする時に園で借りて人気だった紙芝居や本などをメモなどでお伝えすることにしましょう。図書館からお借りしたものの中には、すごく子供が飛びつくものがあるんです。図書館で選んでいただいた本がいつも素敵だなと思うのですけれど。

- 図書館 選んでいる者に伝えておきます。喜ぶと思います。
- 利用者 図書館から団体貸出で借りた本の中に、すごく新しい絵本で『いかにんじゃ』というのがありました。それがうちの園ではすごく人気だったので、運動会でも親子競技としてやったんですよ。あまりの人気にびっくりしたので、職員でも買いました。図書館の本は又貸しできないので、買った本をお母さんたちに「いつでも借りていいですよ」と置いておくと、お母さんたちが順番に借りていくんですよ。それが、すごくいい感じだったんです。図書館を利用させていただいてありがたいなと思います。だから、それぐらいでお返しのできるのであれば、ご協力しますよ。
- 図書館 ありがとうございます。さっき説明し忘れたのですが、指定管理になりました。ここの図書館の運営と、近隣の8校の小中学校に学校支援員という図書室の先生を出しているのですね。実際に学校の図書室で働いているので、子供と接しますよね。その人たちがミーティングとかで来る時も、そこで得てきた情報を私たちに伝えてくれたりします。でも、勤務している小学校と中学校の情報ですから、私たちは保育園や幼稚園の情報も現場の皆さまからお聞きできればと思います。私なんかを選書すると、ぜひこんな本を読んでほしいという名作みたいなものに偏りがちで、現代の子供の志向とズレたりするので。できれば子供が喜ぶもの、興味を持つものを知りたいなと思います。そういう意味では、そちらの方は朝日新聞でずっと選書をされていますよね。
- 利用者 今、ちょっとお休みしています。
- 図書館 ずっと朝日新聞の紙面に子供の本の推薦記事を書いていらっしゃったんですよね。
- 利用者 学校図書館と公共図書館では置く児童書の選書基準が違うので公共図書館は子供が喜んでくれるような、おやつみたいな本を置くのもとてもいいかなと思います。あとは、個人で買えないような子供の本を。人気がなくても図書館だからこそ置けるような本を置いてみるのもいいかなと思います。あと、さっき選書基準のお話で、小竹図書館では例えば、音大のCDとかを中心に買われているっていうお話が出ましたが、館で選書基準みたいなものはあるのか、いろんなところで各自がそれぞれ選書しているのかという事をちょっとお聞きしたいなと思いました。それから館長さんのエネルギー

な対応でいろんなことをやっていらしてすごいなと思って。来るたびに、こんなこともやっているんだ、すごいなと思うので、それが年間通してこんなことがあるよっていうのが一年でわかるようになっていて、早めにPRしてくださるともっと参加者が増えるのではないかなと思います。

図書館

すごく適切なお意見を。

利用者

ケネディに手紙を書くと、必ず返事が返ってくるというような時代があって。私の友達もケネディから手紙をもらったりしたような時代もあったのですけれどね。今、お話聞いて、前もこちらに参加させていただいて。分かったかもしれないんですが、本当に素晴らしいことをなさっていると思います。そして、今おっしゃられた中でも、何でも聞いてくれる。今、政治からテレビからなんでもめちゃくちゃになっていて一人の声が全然聞かれてないような時代になりつつあります。でも、小竹図書館は私が最初に思ったのは、小竹図書館はどういう図書館なのかっていうPRをみんなにキャッチフレーズ的というか、みんなに分かってほしいというか。こんなに素晴らしいのにみんなに知られなさすぎていると思うんですよね。私は広告の仕事を長くやっていたのでそっちのほうに頭が行くのかもしれないですけども、すごくもったいないなと思うんです。それで、これだけの方が集まれるだけでも素晴らしいと思うし、こういう個人的な集まりをしているところって、あんまりないのではないかなと思うんです。いろんなところで。今おっしゃったように年間何をしているかっていうのを、そういうようなことを、うまくいえないですけど。PRをしていただければ。この間も言ったかもしれないですけども、江古田駅に今小竹図書館では何をしていますという、何か広告塔みたいなものがどっかにあればなと思うんですけども。お願いします。

図書館

まずひとつめですけども、CDの選書については特に音大さんに基準を合わせているわけではなくて、リクエストカードといって、こんなCD、本が欲しいというカードを提出することができて、こんなCDがあったらいいなというのをいただいていますので、そういったカードも参考に選びます。もちろん買えないものもあるんですけども、買える範囲で購入した結果が今のクラシックのCDの充実につながっているんだと思います。練馬区の選書については、小竹図書館で買う本の6割は光が丘図書館で選んでくれていま

す。あとの4割を小竹図書館で選んでいます。選ぶ基準は、リクエストカードを入れてもらうことができるのですが、それは買うか買わないかはこちらに任せてくださいというカードです。これは公共図書館で必要だと判断したものはできるだけ購入するよう努めていますし、図書館の分類法で総記から文学まで10分野ありますが、それらを満遍なく所蔵するというのが、公共図書館としての役割かなと考えています。

図書館 その中でも例えば汚れたり、水濡れの本を買いなおしたりだとか、予約がたくさんついた本を買い増したりだとか、リクエストにお応えしたりという事があるので、私どもがこれはいいなと思って、買うことのできる範囲は実は4割よりさらに少なくなります。クラシックCDについて言いますと、基本的には音楽の中でもメジャーな人気のある分野とそうでない部分がありまして。ツタヤとかに行けばいろんなCDがありますので、図書館の役割としてはあんまり聞き手が多くない分野をちゃんとケアできるように選んでおります。実は音楽CDの市場規模で言うと私が図書館業界に初めて入った90年代にはクラシックのCDが市場の5%を切ったと話題になっていました。それが今や、0.1%か0.01%くらいに占有率が縮小してしまいました。今小竹図書館は、CD購入予算の3分の1くらいをクラシックに使っているのですが、それが今後どうしたらよいかと日々悩んでおります。ただ、クラシックは他の音楽ジャンルに比べて寿命が長いというか、流行り廃りが激しくなくずっと聞き続けられる分野でもあるし、武蔵野音大も近くにあるので、今のところは減らさずしております。

図書館 この図書館はクラシックCDの貸出しが多い地域です。学生さんだけでなく、中高年の方ですとか。

図書館 クラシック界は、ある意味行き詰っているのです。例えばベートーヴェンの運命なんかは名指揮者の名演奏が星の数ほどあるので、それを新たにCD制作する必要があるのかと、クラシック界でも疑問視されているので、なかなか国内盤で発売される機会が少なくなっているのです。販売数も少ないです。もはやCDではなく、デジタル配信の時代になっていますからね。演奏家の人はCDが出せなくても自分でYouTubeにアップするような時代になってきましたので、ことクラシックの音楽CDについては曲がり角といえるかも

しれません。

図書館 彼はクラシック愛好家なので、この分野を話し出すと熱がこもります。

利用者 (一同、笑)

利用者 本当にそれだけのことで利用者に知らせたら、もっと小竹図書館の良さを知ってもらえるのに。

図書館 もうひとつイベントを年間で広報してほしいというようなご意見もありましたよね。私もできればそうしたいなと考えているのですが、講師のご都合があったりして直前に決まることも少なくないので、なかなか難しいですね。でも、極力早くお知らせできるように、努力していきます。

利用者 町会も非常にマンネリ化しておりまして、今年こちらで開かれたイベントに、「江古田の歴史」という歴史講座がありまして、30名のところが早々と満員御礼になったそうです。私の周りの人にも聞いたのですが、図書館に電話したら満員御礼だと断られたと何人かが言っていました。それだったらもう1回リターンマッチしようと思って、図書館に講師を紹介していただいたりして、同じ講師でまったく同じ内容の講座を先日、町会会館で、やったところ50名も集まってくださって。そうか、江古田に住んでいて、この町の歴史を知りたいがっている人はこんなにいるのかと新鮮な驚きがありました。地域の歴史なんか小学校で習ったぐらいで、みなさんそう興味がないのではないかと思います。たりもしていたのですが、とても盛況でした。先ほど子供さんたちに「好きな音楽や本は？」という質問をしたというお話が出ましたが、逆に図書館の状況を見て、町会の人とかはこういうものに興味を持っているのだから、ということが、受け取れたという。今後も、町会はマンネリ化しやすいので、新しい情報や地域の情報を図書館から入手していきたい、ここがそういう場であつたらうれしいなと思います。

図書館 情報はお互いにやり取りして有効活用していきたいですね。そういう意味で言うと今度11月25日に小竹図書館で「藤田嗣治と小竹町」という美術講座を開きます。講師は、町会役員のお友達で日動画廊に勤務されていた美術編集者の方です。既に、満員御礼になっているのですが、締め切った後もお問い合わせが続いています。第二弾を町会会館でやっていただければ、皆さん喜ばれると思います。

- 利用者 そうですね。二番煎じじゃないですけど。
- 図書館 なぜ、これをやることになったかという、私たちが来た26年4月からこれまで、複数の利用者さんが、「藤田嗣治がこの辺に住んでいたんだってね、すごいな」と、よく言って来られていたのです。そこで私も業務の傍ら、地域資料を調べたり、さまざまな機会を通して地域の方々に聞いて回ったりしていたのですが、どこに住んでいたのかが今一つわからなかったのです。この町に長い間住んでいる方々も、「住んでいたとは聞いていたけどね」とか、「うちの親が生きていたらなあ」などと、皆さんそれぞれ少しずつ記憶がずれていたりしました。ところが、やっと最近、戦後の一時期、まちの保育園の西にあった洋館建ての家に奥さんと2人で住んでいた、写真家の土門拳がよく遊びに来ていたとわかったのです。そのうえ、親が藤田嗣治に家を貸していたのではないかという人まで出現して、いろんな情報が集まってきて今回の講座の開催に結びつきました。藤田嗣治は今年没後50年で、東京都美術館で回顧展があり20万人が入場したのだそうです。「藤田嗣治と小竹町」の講座では、彼の業績とか、当時の小竹町の様子なども話していただければいいなと思っています。今後も、地域の歴史を発掘したり、情報を集めたりしながら、皆さまに提供していきたいと考えています。そうそう、今、やろうと考えているのが江古田市場の歴史です。どなたか語れる人はいないでしょうか。市場がなくなってから、地域の方が「寂しい」とよく言われているのを聞きますので、それを何らかの形でまとめられたら。何かご存知の方いらっしゃったらぜひ教えてください。
- 利用者 お店をやっていた有名おばあちゃんの話とかね。
- 利用者 そうそう。その息子さんたちがまだ健在だから、資料などが残っているかもしれないですね。
- 図書館 江古田市場がなくなってから、ちょっと町の雰囲気が変わりましたよね。町がモダンになって、こざれいになったのかもしれませんが、ちょっと生活感が薄くなったような。そういうことをぜひ教えていただければ。
- 利用者 江古田市場の元店主に集まっていただいて、情報を集める会などもできるかも。私も親しくしているので。
- 図書館 日芸のOBで作っている演劇活性集団u n iさんが、以前、江古田市場を舞

台にした演劇を作られたことがあるので、u n i さんに相談したら、脚本を作る際に、何人か取材したのでそれを提供しますというように言っているんですけど。

利用者 あと、日芸の方が江古田市場の看板を描いてらっしゃるじゃないですか。お店のシャッターに絵を。あれもだいぶ昔の絵ですよ。

利用者 僕が在学中のときだったので、10年よりもっと前ですね。

利用者 ちゃんと名前も書いてあるので、その時のエピソードもあるでしょうし。

利用者 そうですね。15年くらい前かもしれないですね。

利用者 まだ健在の方もいらっしゃるので、その間にぜひ。

図書館 みなさん、「私が生きている間に聞いておいた方がいいわよ」とかおっしゃっていることなど、ぽつぽつと情報が集まってきている途中です。ところで、そちらの方は、小竹図書館の建設にあたって、ずいぶん運動して下さったとお聞きしていますが、当時描いていらっしゃった図書館の理想像に、今の小竹図書館は近づけていますでしょうか。ちゃんと運動して下さった皆さまの思いを実現できているのかなと、少し不安なんですがいかがでしょうか。

利用者 私は杉並区から51年にこっちにきたのですが、浅間神社の一角に文庫があつて。

利用者 ひまわり文庫ですよ。

利用者 ひまわり文庫があつて、それが八雲神社の境内のところに箱を使った巡回みたいにして回っていて、本当に古い話ですが。それから図書館の開設にかけあつて手伝いをしたという。当時、練馬図書館にも見学に行ったり、都立の図書館にも見学にいたり、いろいろと写真に撮ったりして、1冊の小冊子にまとめさせていただいて。

図書館 寄贈していただきました。建設当時の写真を。

利用者 ほかにも持っている方がいらっしゃると思うんですよ。ですが、私は埋もれさせるのではなく図書館に差し上げようと思っているんですよ。本当に薄い本ですが、それは考えています。

図書館 ありがとうございます。

利用者 先ほどの、授乳のこととか聞いて、当時はそんなことは全く話題にも上らなかったの。今は本当にすばらしいところになりました、大変でしょうけれ

ど、子育てのためにもね、これからしょっていこうと。感激しました。

利用者 よろしいですか。今江古田ひまわりのお話が出ましたが、とても感動しています。練馬文庫連絡会の発案者の方でいらして、そのころ一緒にやってこられた方たちが、まだご健在の方も何人もいらっしゃいますけれども、その方たちの力によって練馬区の中に文庫連絡会が出来まして、生き証人の言葉を聞いたような感じで。今年50周年を迎えるんですが、文庫連絡会にこのお話を持ち帰り、思わぬところでお話が伺えたと伝えます。ありがとうございます。

図書館 昔は赤ちゃんが泣いたら他の人に迷惑をかけるからと、赤ちゃん連れのお母さんは図書館を利用しなかったことがありましたね。でも、今は時代が変わって、図書館にはどうぞ赤ちゃんのころからお越しく下さいという流れになっています。ここ小竹図書館でも、赤ちゃんおはなし会やらブックスタートを開催して、0歳から図書館に親しんでいただいています。

利用者 赤ちゃんおはなし会は、0歳から。ブックスタートは4か月からですね。

図書館 そこを卒業した方が、おはなし会に参加したりとかですね。赤ちゃんから高齢者までみなさん幅広く利用してくださいとアピールしています。

利用者 2点あるのですが。これは個人的に以前から気になっていたことですが、図書館というのは図書館法とかいろいろ法律や決まりがあると思うんですけど、いわゆる同人誌ですとか、個人出版の本は扱ってはいけないのでしょうか。

図書館 扱ってはいけないわけではないのですが、図書館の本は税金で買うのである程度一般の流通形態に乗ったメジャーなものが選ばれてしまうということが多いのです。例えば、小竹町に出版社があって、地元の出版物を出しているということなら収集の対象になりやすいのですけど。雑誌で言うと、ある程度長続きするものでないと収集はなかなか難しいといえます。同人誌レベルのものだと、かなり厳しいかもしれません。

利用者 私は日芸のOBなのですが、文藝学科は本などを作ったりする学科でして、毎月本とかを出しているんですね。私のやっているお店に学生が来るので、よく話をするんですが、「今度、図書館で僕がイベントをするんだよね」と言うと、学生たちって意外と図書館の存在を知らなかったりするんですね。

というのも、図書館は大学にもあるわけで。大学だともっと何十万冊、何百万冊とあるのでわざわざ地域の図書館を利用する必要もない。ただ一方で、その地域で何かしら住民の方々と活動を共にしたいという学生も結構いるんですけども。こと自分の学科で言うと、本をたくさん作ってはいても、結局誰も読まなかったりしてね。学生の自己満足で終わってしまいがちで、たくさんの人に読んでほしいとは思っているんですけども誰も読んでくれないし、本を読むのは時間がかかるじゃないですか。だったら、地域の図書館に、『日芸の学生が作った本です』みたいなコーナーがあれば、地域の方が手にとって読んでくれるかもしれない。中には、将来の作家さんが出たりすることもあるでしょうし。そういうのがあったら面白いかもねというようなことを思います。

図書館 図書館歴が長いのですが、そういったことを伺ったのは初めてで、今新鮮な感動を覚えました。

利用者 便乗してしまうのですが、うちの園の子供たちもたまに自分たちで絵本を作ったりしているので、たとえば企画展示のようなもので1週間限定とか、その場で読めるような形で置いてもらえたら素敵だなと、今、思いました。

利用者 紙芝居とか。絵本とか。オリジナルストーリーの。本を作るのを子供たちにやらせたいなと思っておりますし。

図書館 なるほど。さっきの同人誌の話ですが、買い上げということになると非常に大変なんですけれども、寄贈していただいて館内閲覧とかならできるかなと。

利用者 買っていただくなんて考えていなくて、場所さえあればOKです。

図書館 この辺りは卒業後も住んでいらっしゃる日芸出身の方がかなりいらっしゃるようなので、後輩の作品に興味をもたれて読んでいただけるかなと思います。実は町会の有志の方が集まって活動していらっしゃる俳句の会があり、俳句の同人誌は何回かいただいて、地域資料のコーナーでみなさんご自由にご覧下さいという風に出しているんですね。だから、そういう形だったらできると思います。

利用者 見たいですね。

利用者 もうひとつは、自分のお店のことなんですけれども。たとえば、一つの試みとして、あまりやられてしまううちの商売があがったりになってしまうん

ですけれども。ボードゲームの貸出を図書館でしたら結構革新的だなあと思って。自分が商売をするまでは、ゲームは子供がやる遊びととらえている人が多いと思っていたんですけれども。うちで扱っているのはヨーロッパなどの海外のゲームが多いのです。海外ですと、子供がやるというよりも日本という囲碁とか将棋とかみたいな捉え方をされています。子供が将棋をやりたいというのと、アニメのトレーディングカードをやりたいって言った時に、親とかご年配の方は将棋はいいけど、カードはダメだという感覚があると思うんですね。ただ、ヨーロッパだと伝統的にあるゲームとかだと、大人もいいものだというのがわかっているので、わりと教育の一環として認められていたりするんですね。もちろん図書館は本がメインだとは思いますが、ひとつの地域の知的文化の発信基地というような側面も図書館にあるのなら、ゲームがあっても面白いんじゃないかなと思います。僕は前職が教育関係で未就学児の知育などをやっていて、教育とは名づけられてはいても小さな子供たち相手なのでほぼほぼゲームなんですね。あるいは、そのちょっと一歩手前のものだったりするので、そういった意味ではボードゲームみたいなものも置けないかなというご提案なんです。一つの意見ととらえていただければ。

図書館 武蔵高校かどこかで、ボードゲームのクラブができたというような話を聞いたんですけれども。

利用者 武蔵高校の数学の先生に、ボードゲーム好きの詳しい方がいらして、活動されているというような話を聞いています。

図書館 それをちょっと聞いて、ボードゲームもどうかなと思ったりして。

利用者 そもそもボードゲーム自体の制作者には数学者が多いので、数学の先生でボードゲーム好きな方が結構多いみたいです。

図書館 お子さんの話ばかり出ていますが、敬老館さんから何かご意見をお伺いできますか。

利用者 今日はこども関係の方が多く参加されていて、そういう活動がさかんだなとすごく思ったんですけれども。子供以外の大人とか高齢者向けのイベントとかアプローチの仕方はどうなっているのかな。あとは借りている年代っていうのは誰が一番多いのかなとか、そういうのってどうなんでしょう。

図書館 貸し出しの多い本や、予約の多い本は図書館のホームページから利用者さんも見られるようになっているんです。高齢者の方への特別なイベントもこれまで何回かしておりまして、それは「老後の不安解消セミナー」ですとか、何回かに分けて成年後見人制度についての説明ですとか、親が倒れた時にどうしたらいいのかなど、区はこんな支援をしているということを区の介護支援課の職員を講師に招いて講座をやったりとしています。それらがみなさんの本当に知りたいことと合致しているのかなというような不安はありますので、そういうご意見もぜひいただけたらと思います。あと敬老館さんと小竹図書館で毎年冬に4回連続で絵本のよみきかせ講座というのをやっています。ここを卒業した方が、よみきかせボランティアグループ「ブックブック栄町」という団体を作って、保育園によみきかせに行ったりやったりとかしているのですよね。児童館さんはどうでしょう。

利用者 児童館さんにも去年行かせていただきました。

図書館 当初私どもは、敬老館に行って、高齢者の方への昔話などのよみきかせをしようと考えていたのですが、敬老館さんにご相談すると、それでは敬老館の利用者は喜ばないと思うとおっしゃられて。60歳になっても70歳になっても自分がまだまだ世間から必要とされている現役だと思うことで元気になれるという話を聞いて、「なるほど」と思い直しました。高齢者の方は、うまい下手は別にして、今までの子育て経験や人生経験を積んで、人それぞれに味のある読み方ができるでしょうから、それを活かして絵本のよみきかせをしていただこう、その活躍する場をともに開拓していきましょうという話になりました。

利用者 講座は3年前からやっていますよね。講座を卒業した有志で立ち上げたよみきかせボランティアグループの「ブックブック栄町」の活動は、この9月で3年目に入りました。

図書館 このグループの中には元幼稚園教諭という人もいらっしゃるのですが、いろんなところでやりたい気持ちもあるけれども、体の調子が悪い時もあるので、来れる時に自由に参加していいよなどというゆるいところが私には合っていると行って参加していただいたりしています。

利用者 先ほどのボードゲームの話に戻るのですが、ボードゲームカフェを町で見か

けて、一度行きたいなと思ったことがあるんですけど、お店が2階にあるので私には階段がきつくて。高齢者が行って遊べるようなところや楽しめる場所がなかなかないので。例えば、こういうところで高齢者が集まる会などをやっても楽しいと思います。私は子供に英語を教えていて、ビンゴとかカードとか、とにかくそういうのから始めるのです。たぶん高齢者も同じだと思うんですね。そういうのもぜひ、ここだったらみんな来られると思うし。楽しくて元気になると思うのでよろしくお願いします。

図書館 ボードゲームの話だけをしましたが、小竹図書館では立体パズルですとか、ナンプレ講座もやっております。それらも利用者さんが、「私はこういうことをやっているんだけど図書館でもやれないだろうか」と言ってきてくださったのです。別にそれらは高齢者専用というわけではなく、小さい子供からお年寄りまでが対象なので、皆さまご興味がありましたらぜひご参加ください。また、ここに集まってくださったほとんどの皆さまが、その道のエキスパートでさまざまなスキルをお持ちのようですので、小竹図書館で講師をやっていただけたらうれしいです。お時間があれば、ぜひ個別にご相談させてください。

図書館 さて、そろそろ定刻になりますので、閉会にしたいと思います。今回は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後の図書館運営に生かしていきたいと思います。最後になりましたが、みなさま本日はお忙しい中、小竹図書館の懇談会にご参加いただきまして、本当にありがとうございました。